

シンポジウムS3 オーストロネシア語系集団の起源と東南アジアの先住民

Dispersal of Austronesian speakers and Southeast Asian indigenous

オーガナイザー：松村 博文

10月9日（9：00～10：00）D会場

オーストロネシア系言語集団の起源については、言語学と考古学のデータから4000年前以降に台湾からフィリピンを経て、東南アジアの島嶼部と一部大陸、マダガスカル、オセアニアの広域に農耕と言語がセットとなって拡散したとする”Out of Taiwan”仮説(Bellwood, Renfrew, Diamondらによる)がよく知られている。この仮説で最大の問題となるのは、人の移住がどの程度伴ったかであり、その見解は大きく分かれるところである。最近の遺伝学的研究では、先住集団と相当な規模で混血置換したとする見方がある一方(Coxなど)、集団移住の規模は小さく各地域の住民は更新世以来連続しているとの主張もなされている(Soaresなど)。一方、形態学的研究や古人骨DNA研究では検証に耐えうるスケールでの保存の良い先史人骨が欠如していたため、この仮説の検証には関わっている研究例は極めて少ない。近年、新たにインドネシア、ベトナムや台湾などから質量ともに良好な発掘人骨が相次いで発見され、ようやく先史人骨によるOut of Taiwan仮説の検証へのアプローチが可能となりつつある。本シンポジウムでは、形態と遺伝から東南アジアにおけるネグリトに代表される先住民や新石器時代以前の集団と、後続のオーストロネシア語系集団との関係と起源について解明の鍵となる最新の研究成果を紹介する。

講演

S3-1 全ゲノムSNPデータにもとづく東南アジアネグリト集団のDNA解析（斎藤 成也）

DNA analyses of Negrito populations in South East Asia based on whole genome SNP data (Saitou, Naruya)

S3-2 オーストロネシア仮説の検証：スマトラ島グアハリマウ遺跡出土人骨から（松村 博文）

Austronesian Hypothesis verified from the Skeletal Human Remains from Gua Harimau Site in Sumatra (Matsumura, Hirofumi)

S3-3 インドネシア、グアハリマウ遺跡出土人骨のDNA分析（篠田 謙一）

DNA analysis of the human skeletal remains excavated from the Gua Harimau Cave in Indonesia (Shinoda, Ken-ichi)